

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版, CASBEE-埼玉2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)タムラ製作所坂戸事業所	階数	地上4F
建設地	埼玉県坂戸市千代田五丁目5番1	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	400 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,900 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年7月4日
敷地面積	4,171 m <sup>2</sup>	作成者	(株)梶建築設計事務所 金子 正
建築面積	3,102 m <sup>2</sup>	確認日	2017年7月4日
延床面積	8,536 m <sup>2</sup>	確認者	(株)梶建築設計事務所 金子 正



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 埼玉県坂戸市のタムラ製作所坂戸事業所敷地内に計画された事務所である。 高効率な設備システムの導入・外皮性能の向上を図り、高い水準での省エネルギー化を達成している。		その他
<b>Q1 室内環境</b> ・ほぼ全面的にF の建材を使用し、自然換気有効面積の居室面積に対する割合を1/30以上とする等、室内の空気質環境向上を図っている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・高寿命な配管材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。 ・テラス・休憩スペース等のリフレッシュスペースを十分確保し、快適性の向上を図っている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・建物外周の緑化を積極的に行い、植栽による良好な景観形成に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・外皮性能を高めるとともに、高効率な空調システムやLED照明の全面的な採用等により、省エネルギー化を図っている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・給水器具の過半に節水機能のあるものを採用し、水資源の保護に配慮している。 ・躯体と仕上材の分離が容易であるLGS工法の採用、OAフロアの採用により、部材の再利用可能性向上を図っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率: 62%とし、地球温暖化に配慮している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
**Q: Quality** (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
 (飯塚)タムラ製作所坂戸事業所 再開発プロジェクト 第 二期工事

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
 評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>0 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.6</b>	0.15	-	-		<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1.2 遮音				<b>4.6</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2		<b>5.0</b>	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		Dr = 40		<b>4.0</b>	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35	-	-		<b>2.0</b>
2.1 室温制御				<b>2.3</b>	0.50	-	-		
1 室温				<b>2.0</b>	0.38	-	-		
2 外皮性能				<b>2.0</b>	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.2</b>	0.25	-	-		<b>3.2</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30	-	-		
1 昼光率				<b>1.0</b>	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00	-	-		
3.3 照度		平均照度:500LX		<b>4.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御		1作業単位以下で制御可能であり、リモコンスイッチ等で調整でき		<b>5.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気環境</b>				<b>3.4</b>	0.25	-	-		<b>3.4</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF の建材を使用している。		<b>4.0</b>	1.00	-	-		
4.2 換気				<b>2.6</b>	0.30	-	-		
1 換気量				<b>3.0</b>	0.33	-	-		
2 自然換気性能		自然換気有効面積の居室面積に対する割合は1/30以上		<b>4.0</b>	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.33	-	-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.7</b>	0.40	-	-		<b>2.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.3</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				<b>1.0</b>	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				<b>3.0</b>	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高さ:2.8m		<b>4.0</b>	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースは執務スペースの6.71%		<b>4.0</b>	0.33	-	-		
3 内装計画				<b>1.0</b>	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.30	-	-		<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>2.0</b>	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用している。		<b>5.0</b>	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>2.0</b>	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスはAクラスである		<b>3.0</b>	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				<b>2.0</b>	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.8</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	2F壁長さ比率:0.13	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱性能の高い建築外皮材料を使用している。	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.72	<b>3.8</b>	0.50	-	-	<b>3.8</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60	-	-	<b>3.5</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:ビニル床材、壁:断熱材	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材の分離が容易である。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率:62%	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	日光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)タムラ製作所坂戸事業所 再開発プロジェクト 第 Ⅱ 期工事	BEE	1.1	BEEランク
------	-----------------------------------	-----	-----	--------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.8	+	2.0	=	5.8 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		スコア平均	3.8
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
< 配慮した内容を記述 >			
・ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率: 62%とし、地球温暖化に配慮している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 >			
・建物周りの積極的な緑化を行っている。			

 : 入力欄